

奈良文化女子短期大学 幼小接続ワーキンググループ合同研究会
第39回 議事録

- 1 日 時 平成24年9月15日(土) 11:00~12:30
2 場 所 奈良文化女子短期大学 本館 5階(第1演習室)
3 参加者 20名
うち新規参加者 2名
奥田 由貴子 生駒市立壺分小学校
石山 郁恵 生駒市立壺分小学校
本学学生 3名
本学事務局 4名

4 内 容

- (1) 幼小接続研究の意義及び視点、これまでの取組経過について説明(善野代表)
- 幼小接続期のカリキュラム作成に当たって、「三つの自立」の重要性とワークショップとのつながりについて
[概要]
 - ① カリキュラム開発の必要性・・・幼小の教育の目的の連続性と一貫性を重視し、本研究会では入学前3週間から入学後5月第1週ぐらいまでを設定している。
 - ② 本ワーキングは、現場支援の観点からカリキュラムメーカーとしての役割を果たしていきたいと考えている。
 - ③ 幼小のつながりの視点から「学びの基礎力(知・徳・体)」の育成を期して、具体的ワーキングとして「とまどいマトリクス」(善野 2012)を活用し、提案していく。
 - ④ 「とまどいマトリクス」の着眼点として、時間・空間・人間・もの・技能・心情を設定し、幼小混合のグループで現場の視点から具体的事例を出し合ってきた。
 - ⑤ 「三つの自立」は、文部科学省が2011年に「学びの自立」「生活上の自立」「精神的な自立」の観点から定義的に解説しており、それぞれの解説文には深い意味がある。こうした「三つの自立」については、幼児期の終わりから児童期(低学年)において、基盤を培う役割を担っている必要である
幼小接続カリキュラムの開発に当たっては、「三つの自立」についての記述からキーワードとなる表現に着目し、それらを切り口として単元開発の親和性をもたせたい。また、それぞれの具体的中身に当たる平素からの取組を出し合い、幼小接続のための改善点等の共通理解を図っていく。
【「三つの自立」に関して取り出したキーワード】
 - ・「よく聞いて」「表現できること」・・・学びの自立から
 - ・「習慣や技能を身に付けること」・・・生活上の自立から
 - ・「意欲や自信をもつこと」・・・精神的な自立から

○ 確認し合ったこと

- ・日常的に幼小双方に負担のない取組を進め、幼小の交流活動後はきちんと振り返りを行い、きめ細かさを大切にすること。
- ・本WGに参加するメリットは、幼小の優れた取組を交流し合えること。

○ 三つの自立に関する事例

- ・精神的な自立に関しては、新学期に幼稚園が小学校に「校内散歩」行った事例（小学校生活への期待と憧れ：ジャングルジムの大きさ、校庭の広さ、飼育舎の生き物への関心、芝生に寝転がって「空が見える！」）
- ・生活上の自立に関しては、幼稚園にはない階段や幼稚園とはサイズの違うトイレの使用に関する事例（階段を3階まで昇ると「山登りしているみたい」、トイレのスリッパは大き過ぎるので次回からは園から持参した）、ひもを結ぶ体験や技能を習得する事例（実際の小学校の活動で時間がかかるのは、七夕の願いを書くことではなく、書いた後に笹に短冊を結ぶ作業であること、「リボンマシーン」の紹介）
- ・学びの自立に関しては、「絵本の部屋」に小学校1年生の教科書の教材と同じ絵本を展示して1日体験入学につなげている事例、小学校の先生が幼稚園で「数あそび、数の不思議」の出前授業を実施した事例

② 「学びの自立」の観点で事例を出し合いながら、幼小接続上の在り方について話し合いを進めた。

○ 確認し合ったこと

- ・前回のワークショップでは、「自分の考えや思いを相手に分かるように伝えることが難しい」という課題が出されていたこと。
- ・今回は「話す・聞く」の事例を出し合い、幼小の教師の意識や指導の構えについて、差異に着目し理解し合うこと。
- ・小学校1年段階で身に付いていないと考える事例の中には、幼稚園からの連続性を意識して指導していくべきものと、小学校からの始まりであると認識してきちんと指導していくべきものがあること。

○ 小学校からの事例

- ・「みなさん」という呼びかけの言葉が入学当初に通じない事例
- ・対面でのあいさつや入室のあいさつなど、定型的なあいさつ言葉は幼稚園でも習慣化していることを実感するが、自分の考えや思いを出すということは、小学校でも学習場面や生活場面で十分育てられていない事例

○ 幼稚園からの事例

- ・遊んだ後の感想などを出し合う場面では、聞く必然性を感じさせる経験をもたせるよう留意している事例
- ・幼稚園は子どもの思いを出すことを大事にしているが、小学校は友だちの話を聞くことを優先させていると疑問を感じる事例
- ・子どもの発達段階を踏まえると、「○○ちゃん」という声かけが主であり、「みなさん」の言葉は集団という認識ができないため場面的にあまり使わない事例
- ・子どもには場に応じた声の大きさを意識させる取組をしている園としていない園が

ある事例

- ・小学校の先生が児童に対して大声で指導している場面に出会うと、園児は構えてしまったり驚いたりした事例

(3) まとめ（善野代表）

○ 今後の合同研究会でのワークショップの方向性について

本研究会でのワークショップでは、「入学後の子どものとまどいを見通した「1日体験入学」(幼小共通)の指導案作成に取り組んできたところであるが、今後カリキュラム改善につながるためには評価という検討課題と、具体的な評価活動レベルまでの協議ができることが望ましい。評価をどのように幼小接続と結び付けるかがポイントであり、幼小接続が教育課程上で評価まで位置付けられることによって、幼稚園児が安心して小学校へ進級できることになる。

このような評価の視点を踏まえた教育の質にまで研究の目が向けられているということについて、東京大学の秋田喜代美教授が問題提起している記事（本日の配布資料）をもとに紹介。

(4)参加学生の感想

・幼小が接続するには、双方、負担のないようにすることと、のりしろを重ねるようにつなげていくことが大事だと学びました。

「幼稚園で聞いてもらっているから、小学校で話せる」と小学校の先生が幼稚園の先生を称えられていたのが印象に残り、認め合ったり、理解し合ったりすることが接続の要かなと思いました。

善野先生のキャリアデザイン演習Ⅱの「あったらいいな、こんな運動会」の競技種目を企画する参考にもなりました。

また、帰りのバスで、八尾市の幼稚園の先生とご一緒させていただき、お話することができました。収穫、いっぱいの日をありがとうございます。(1回生 A)

・昨日は研究会に参加させていただき、ありがとうございました。あのよう幼稚園・小学校の先生方の意見を聞く機会はなかなか無かったので生の声を聞くことができ本当に、本当に勉強になりました。先生方は色々な視点から子どもたちを見ていて細かいところまで、何をしていたらいいのかを考えているところが凄いなと感じました!!

難しいところもありましたが、グループになり話し合いをしたときは、先生方のたくさん意見に凄く興味がわき、楽しく聞くことができました。

また行ける機会があるなら是非参加したいなと思いました。本当に！勉強になりました。ありがとうございました！(1回生 Y)

5 次回の予定

平成 24 年 10 月 20 日 (土) 11:00~12:30

※ 毎月定例は、第3土曜11:00~12:30